

社会科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058145

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



社会科

金田 哲也

水橋 長之

岡田 哲典

共同研究者 加藤 隆弘（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

社会科の目標として、次期学習指導要領では次のように記載されている。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上記の(1)は、学校全体として育成する資質・能力として設定した、「①日本の伝統や文化に関する理解」にあてはまる。同様に(3)は「②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度」や、「③文化の伝承・創造への主体性」にあてはまる。このように、学習指導要領の求めていることをふまえ、研究を進めてきた。

過去2年間の実践を通して改めて実感したことが、社会科の授業実践の大半が伝統文化教育につながるものだという点である。教科等横断的な実践を考える上でハブとなる教科だからこそ、教科として付きたい力をふまえた上でできるだけ多く、様々な教科等との連携の可能性を探るとともに、内容の精選やより効果的で効率的な方法を模索してきた。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

学校全体として育成する資質・能力として昨年度、次のように設定した。またこれらは、グローバル社会に生きるために必要な資質・能力であるとも捉えられている(本校研究紀要第61号 p15)。

- ①日本の伝統や文化に関する理解
- ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
- ③文化の伝承・創造への主体性など

地理的分野を例にとると、「世界各地の人々の生活と環境」の単元においては、伝統や文化そのものだけでなく、グローバル化のなかで伝統や文化が変容していくことも扱う。「日本の諸地域」の単元においては、中学校学習指導要領解説 社会編に、「地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象などを中核として、地域的特色や地域の課題を捉えることが考えられる」と明記されている。歴史的分野においても、「歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察」と明記されている。ここでは、後述する資質・能力の「①日本の伝統や文化に関する理解」や、「②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度」を育成することに重きを置くものである。

そして公民的分野では、「現代日本の社会は…いろいろな場面において伝統や文化の影響を受けていることを理解できるようにし、それらが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現できるようにするとともに、我が国の伝統と文化などを取り扱う中で、文化を受け継ぎ、創り出していくことの意義について考察し、表現できるようにする」とあるように、資質・能力の「③文化の伝承・創造への主体性」に関わるものである。

このように①、②がまずあって、その先に③がある、すなわちスパイラル型に育成されていくと考えていた。発達段階に応じて、初めは①や②が多かったものが、のちに③を中心としたものとなっていくのも自然な流れであろうと考えていた。

しかし実際には、①があって③につながる、または③があってより深く知ろうとする中で①につながるといった、様々なケースが見られた。

例えば後述する能に関する実践は前者にあたるだろう。社会科や国語科、音楽科における事前指導があって、それらのなかで①が育成され、また③の端緒が生まれ、その上で観能教室で実際に能に触れることによって③の育成につながると考えられる。また、「古くからあるものだから大切であり、残していかなくてはならない」といった、知識としてはわかっているのかもしれないが実感としてわかっていないのではないかと思われる生徒の発言や記述が見うけられることがある。このようなケースにおいては、知識を増やしていくことによってなぜ受け継ぎ、守っていかなければならないのかということに対する理解が深まることで、まず①があり③、そして①がより深まっていくという、連鎖が見取れた。

(2) 関連・連携を図った教科等について

今年度は特に、どこの学校においても取り組める実践というものについて意識した。社会科という

教科の目的をふまえた上で、伝統文化に関する内容を織り込むことで、本校での実践を取り入れやすくしようというものである。

そういった取り組みの中で、継続して行われているのが能に関する実践である。金沢市内の中学生が参加する観能教室が3年次に行われており、事前指導としての位置づけで国語科や音楽科においても能について学んでいる。しかし社会科で能を主に扱うのは1年次（歴史的分野）であり、どうしても観能教室までの時間差が出てしまう。3年間を見通した指導の中に位置づけて1年次で能を扱い、3年次につなげる意識を持つことで、1年次では要素①を、3年次の「私たちが生きる現代社会と文化の特色（公的分野）」では要素③を意識し、さらに国語科や音楽科との連携によって深い学びにつなげることができた。

また、他教科からの連携を模索するアプローチに対して、社会科が関わることができた。技術分野におけるガイダンスの内容として、技術が進展することによる光と影の部分の両面を見るという実践が行われた。これに対して、社会科からも世界各地の人々の生活と環境の学習において、技術の進展などが人々の生活を変えていき、利便性などを求めた結果として伝統的な生活が失われていくという実践を行うことができた。時期的に近いこともあり、社会科の授業の中で生徒から「技術の時間にも学んだ」という発言が出てくるなど、双方向で学習内容を再確認することができ、より深い学びにつながったのではないかと考えられる。

一方、教科間の連携だけでなく、総合的な学習の時間との連携を多く模索することができた。例えば1年次、本校ではシルエット劇を行っているが、昨年度は日本の歴史や神話を題材とするものであった。これに関連して、ギリシャ神話との共通性を模索するなど、日本の伝統や文化に関する理解だけにとどまらない実践を行うことができた。

4. 成果と課題

(1) 教科横断的な視点から

本校社会科では12月に、全校生徒を対象にアンケートを実施した。アンケートの設問要旨としては、次のとおりである。

設問1	社会科の学習内容のなかで、他教科との学習内容との関連を意識したことがあるか
設問2	設問1の具体例についての自由記述
設問3	教科横断的な学習について
	① 新たな気づきや学びがあったか
	② 興味・関心がより高まったか
設問4	「伝統や文化に関する教育」についてどのように感じ、行動に移しているか

設問1の結果は、次のとおりである。なお、カッコ内は前年の数値である。

	1年	2年	3年
意識したことがある	33.8% (43.0%)	81.9% (87.2%)	71.7% (58.8%)
意識したことがない	66.2% (57.0%)	18.1% (12.8%)	28.3% (42.2%)

1年から2年への変化として、「意識したことがある」と答えた生徒の割合が大幅に増加した。その一方で、3年については前年度の3年よりも増加しているものの、前年度の2年と比較すると低下している。2年の数値が高くなる要因として、地理的分野で日本地理を学習しており、このことが他教科等の伝統や文化に関する内容と結びつきやすいことが考えられる。また3年に関しては、日本の伝統や文化を全体として網羅する単元があることから、学年全体としての深まりは2年ほどではなかったようである。しかし一部の生徒には強い深まりを感じたことが、次のような記述からもうかがえる。このような学習全体の深まりを、どのようにして学年全体に広めるのかが、これからの課題であろう。

設問2の自由記述欄 3年生徒の一部抜粋

- ・社会はすべての教科の集大成。
- ・一番大切な教科なんてない。すべて大切だ、そう思いました。

設問2の自由記述欄では、他教科との学習内容が関連しているものの具体例として、特に下表のようなものを挙げる生徒が多かった。これらはそれだけ印象に残りやすいとも言えるだろう。教科間連携をさらに深めることができた一方、年度初めの実践は印象に残りにくい傾向があることもわかった。改めて、教科間連携の必要性や重要性を感じている。社会科だからこそ伝統文化ありきになってはいけない、通常の授業の中で意識させていくことを大事にしてきたと思うが、むしろ逆に社会科から積極的に仕掛けていった方がより教科間連携が活かされたのかもしれない。

英語科における、日本の伝統的な文化を紹介する活動のように、年間を通して継続的に取り組める活動との連携を進めることも必要だと考えられる。また、雨温図の読み取りなど気候の分野を苦手とする生徒が多いが、理科との連携を図ることで、より理解しやすくなったと考える生徒や、その逆に社会での学習によって理科がより理解しやすくなったと考える生徒も見られた。

【表 社会科の学習のなかで、他教科との学習内容の関連を意識したことの具体例】

1年	国語	古文が書かれた当時の様子や文化について
	英語	日本の伝統的な文化を紹介する活動
2年	国語	伝統文化についての意見文を書く
	理科	気候や、地震などの自然災害 単位（ワット）の由来について
	英語	日本の伝統的な文化を紹介する活動
	家庭	伝統的な食文化（保存食品など） 伝統工芸品
3年	国語	歴史の時間に学んだ作品を、学習するとき 古典（和歌・短歌・俳句） 方言
	理科	日本の地域ごとに特色ある気候が見られる理由 焼畑農業
	音楽	世界の民族音楽 伝統的な音楽
	美術	日本の文化（模様について）
	技術	Society5.0 持続可能な社会 伝統工芸 情報社会
	家庭	地域社会
	総合	多文化社会
	道徳	戦争体験 公正公平や差別，人権に関すること

設問3の結果は、次のとおりである。

教科横断的な学習について	1年	2年	3年
「新たな気づきや学び」が、たくさんあった。	35.8% (43.0%)	61.7% (53.8%)	65.1% (47.7%)
「新たな気づきや学び」が、少しはあった。	53.6% (55.1%)	38.3% (44.2%)	34.2% (48.3%)
「新たな気づきや学び」は、ほとんどなかった。	4.6% (1.3%)	0.0% (1.9%)	0.0% (3.3%)
「新たな気づきや学び」は、なかった。	6.0% (0.6%)	0.0% (0.0%)	0.7% (0.7%)

教科横断的な学習によって	1年	2年	3年
興味・関心が、とても高まる。	50.3% (58.9%)	60.8% (50.6%)	53.8% (52.0%)
興味・関心が、ある程度は高まる。	41.1% (37.3%)	35.8% (46.2%)	41.4% (44.1%)
興味・関心は、あまり高まらない。	5.3% (2.5%)	2.7% (3.2%)	4.1% (4.0%)
興味・関心は、高まらない。	3.3% (1.3%)	0.7% (0.0%)	0.7% (0.0%)

学年が進むにつれて、新たな気づきや学びが増える傾向が見られるが、これは3年間継続して研究に取り組んだ成果であると考えられる。また、特定の教科間における連携というよりは、すべての教科がつながっているという気づきを得たと思われる記述も多くなる傾向があるように感じた。新たな気づきや学びに関するものとしては、次のような記述が見られた。

【1年】

- ・苦手意識を持っている社会科の学習のなかで、好きな理科との関連性を見つけることができるととてもうれしい。
- ・同じ内容の学習でも、違った方面から、違ったことを中心（目的）としているので、その学習についてより詳しくわかることができるからいいと思う。また、その内容を何度もすることで、確実に覚えられると思う。
- ・ほかの教科でもするという事は、それだけ大切なことなんだと思った。

【2年】

- ・京都の観光事情を通して、どうあればよいのかを考えた。地理の時間で勉強していたので、総合での活動がスムーズに感じた。
- ・特に江戸時代は、様々な教科の伝統に関する部分と関連が深いと感じた。
- ・学習にムダはない。すべてのことがつながっている。
- ・教科ごとに視点を変えることによって、違う見方や考え方ができると思った。
- ・社会科の知識が多少たりなくても、ほかの教科の知識とつなげて考えるとわかることがある。多面的に考えることもできる。

【3年】

- ・関連している事柄を通して、その単元への理解がより深まった。
- ・ほかの教科とも関連していることで、ほかの教科の視点から見ることで腑に落ちるということがあって、おもしろかった。
- ・教科につながりがあることで、興味を持ちやすくなる。
- ・それぞれの教科で習ったことを生かせるなど感じたり、視野が広がったりした。

(2) 社会科としての視点から

アンケートの設問4、『昨年度からの授業（全教科）を通して、「伝統や文化に関する教育」について、どのように感じていますか』に対する結果は、次のとおりである。

伝統や文化の大切さを、	1年	2年	3年
ある程度理解することができ、何らかの行動に移すことができた。	7.4% (7.6%)	11.4% (3.9%)	11.4% (18.3%)
ある程度理解することができた。	86.5% (87.3%)	83.9% (87.7%)	83.9% (76.5%)
あまり理解することができなかった。	5.4% (3.8%)	4.7% (8.4%)	4.7% (5.2%)
理解することができなかった。	0.7% (1.3%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)

また、行動の具体例としては、次のような記述があった。知識や経験が増えていくことで何らかの行動に移したい、移そうという意欲が高まるのか、学年が上がるごとに行動の具体例を書く生徒が増えていることがわかる。

【1年】

- ・輪島塗のはしを買って使っている
- ・伝統的な食べ物を作ってみた
- ・はしの使い方について意識した

【2年】

- ・伝統的な食べ物を実際に食べてみた
- ・AFSのプログラムの時、日本の食文化について外国の人にプレゼンテーションをした
- ・数学から、旗源平について調べた
- ・普段の生活で、金箔に関連する商品を買うことがあった
- ・伝統工芸に興味を持ち、いろいろ調べました。家に伝統工芸品があつたりして、実際に触れることもできたり、九谷焼づくりも体験した。
- ・他県に住んでいる知り合いに、地元のいい場所を言えた
- ・伝統やその魅力について、人に話して伝えた
- ・茶道を習った

【3年】

- ・金沢のことを外国人に紹介した
- ・学校で習ったことを家の人に「ねえ知ってる？」と自慢した
- ・街中で外国人に説明できた
- ・伝統工芸品に触れ、自分でも実際に作ることができた
- ・伝統文化というものを、いろいろと考えるようになった
- ・どの伝統に対しても批判的な考えが減り、逆にそういうことを知るのが楽しくなった
- ・よく神社に行くようになった
- ・地域の行事に参加したり、楽しんだりするようになった

- ・金沢のものを買ったり使ったりするようになった ・昔のことについて調べた
- ・自分の伝統文化に対する考え方を、国語の作文で表現することができた。
- ・臨時で、箏の発表会に出ました。
- ・体育の柔道や社会の地理などで学んだ伝統や文化と、自身の体験が合致したり、これからしてみようと思えた ・美術の時間に知った、伝統的な模様について調べた
- ・湯飲みをつくったり、輪島塗を見たりした ・伝統や文化を守ろうと行動できた
- ・伝統食を作る、伝統を親から受け継ぐ ・日本の文化である将棋についてのスピーチを行った

多くの生徒はおおむね、伝統や文化の重要性を認識していることが設問4からもうかがえる。また、それがグローバル社会で生きていくために必要なことであるという認識も、ある程度持っている。例えば自由記述欄からは、次のような意見が見られた。

【1年】

- ・あまり伝統などに関心がなく、知識もなかったけれど、今でも伝統文化を伝えている人がいることや、昔の人々の知恵がわかってすごいと感じた。
- ・自分の町の伝統や文化に、今まで以上にふれてみたいと思った。また、自分たちが守って受け継がないといけないと思った。
- ・自分の当たり前は、他の人から見たら当たり前ではないんだなと思った。
- ・日本の伝統は、守らないといけない大切なものなんだなと実感した。他の国とは全く違ったり、似たような文化のところもあったりして、いろいろな国の文化があっておもしろいなと思った。
- ・外国人に適切に伝えるためにも、もっと日本の文化について知りたいと思った
- ・日本の文化を詳しく知れただけでなく、英語でも伝えることができた

【2年】

- ・実際に日本で行われていたり、取り組まれていたりすることなどをより深く知ることができたから、普段の生活でもそういうものを見つけていきたいと思いました。
- ・いろいろな教科と関連があることを学ぶにつれて、やはり伝統文化は後世に残していくべきだと思うようになった。

【3年】

- ・社会で昔の人々の暮らしを、国語で昔の人々の感性を知ることができた。
- ・昔の知恵を現代のものに利用していて、昔の知恵はすごいなと思った。
- ・戦争経験者や被爆者の話から、当時の人々の思いやつらさを、社会の学習内容とあわせてより深く感じることもできた。

校区という概念がない学校だからこそ、伝統や文化に関する教育に取り組んでいくことの意義があることを今更ながら再認識している。地域社会との結びつきが希薄化している現代だからこそ、その課題に社会科として向き合う方法のひとつが、伝統や文化に関する教育だったのかもしれない。

実践事例

社会

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">1 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">技術・家庭</p>
<p>授業内容</p> <p>寒帯に住むイヌイットの暮らしについて、衣食住を軸に調べる。その後、伝統的な生活とそうでない生活に関することに分けて整理し、生活の変化についてまとめる。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>イヌイットの生活の変化がどのような要因によってもたらされているのかを考察し、発表することができる【思考・判断・表現】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>導入</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雨温図を読み取り、寒帯のイメージを持つ(10分) <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書で、イカルイト（カナダ）の雨温図を見る ・札幌の雨温図と比較することで、寒帯の寒さのイメージを持つ <p>課題の提示 イヌイットは、どのような暮らしをしているのだろう</p> <p>展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 衣食住に分けて調べ、ノートに整理していく(15分) <ul style="list-style-type: none"> ・読み取れること(教科書本文や写真などを見れば調べられること) ・考えられること 3. 整理したことを確認する(13分) <p style="margin-left: 2em;">伝統的な生活と、そうでない生活に分けることで、生活の変化を知る</p> 4. イヌイットの暮らしが、なぜ変化してきているのかを考察する(7分) <ul style="list-style-type: none"> ・便利さを求めた結果なのではないか ・政府の方針によるものではないか → なぜそのような方針が出されるのだろう？ ・こうした変化は、日本人にもあてはまるのではないか <p>まとめ(5分)</p> <p>寒帯に住むイヌイットは、冬は雪でできたイグルーに、夏はあぎらしの皮で作ったテントに住み、移動しながら狩りをしてあぎらしやカリブーを食べて生活してきた。現代では定住が進み、伝統的な生活も見られなくなってきているが、伝統的な食生活は残っている。</p>	

実践事例

社会

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">1 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">国語・音楽・美術</p>
<p>授業内容</p> <p>書院造と能を中心に，室町文化の特色について扱う。書院造は現代の和風建築の源流になった。また能は，現代にも受け継がれている芸能であり，特に金沢市においては中学生を対象とした観能教室も開催されていることを理解する。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>・武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解し，現代にも結び付いているといった知識を身に付けている。</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>①日本の伝統や文化に関する理解</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>導入（7） 銀閣や書院造，龍安寺の石庭に関するデジタル教科書の動画を見る。 雪舟の水墨画や，現代の能の写真を見る。</p> <p>課題 室町時代の文化は，これまでの文化とどう違うのだろう</p> <p>展開</p> <p>活動その1（15） 能や書院造について調べたことをふまえて，4人のグループで，課題の答えについて話し合う。 観能教室を終えた3年生が書いた新聞も参考にする。</p> <p>活動その2（10） 4人グループの半数を入れ替え，相手に自分たちが調べて話し合ったことを伝える。 （能を調べた生徒が書院造を調べた生徒に説明し，書院造を調べた生徒は能を調べた生徒に説明する。）</p> <p>活動その3（10） 書院造と能に共通する，これまでの文化との違いについて考えたことを発表する</p> <p>これまでの文化は自分たちの生活に直接深く関わっているとは言えないものが多かったが，室町の文化は書院造や能のように，自分たちの身近にも見られたり関連したりする点が見られる。</p> <p>まとめ（8） 能や，その継承への取り組みに関する映像を見る。 感じたことや考えたことなどについて，ペアで意見交換し，発表する。 ・音楽の時間に学んだ民謡と共通する点がある気がする。</p>	

実践事例

社会

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">2 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">国語</p>
<p>授業内容</p> <p>「幕府政治のまとめ」 江戸時代には、様々な改革が行われてきた。それぞれの改革の特色を整理し、まとめることで、時代の流れを整理する。また、浮かび上がった特色を川柳・狂歌とすることにより、三大改革等への理解を深める。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>・江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりについて関心を高め、それぞれの政治改革の特色をとらえ、表現することができる。 【思考・判断・表現】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>①日本の伝統や文化に関する理解 政治改革の特色を川柳にすることで、江戸時代より、庶民に親しまれてきた川柳の良さについて理解する。</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>導入</p> <p>1 幕府政治のまとめ（20分） 既習の幕府政治について、各自でまとめる。 ・徳川綱吉…財政難，貨幣改鑄，生類憐みの令 ・新井白石…正徳の治，貨幣改鑄，長崎貿易の制限 ・徳川吉宗…享保の改革，上米の制，新田開発，目安箱，公事方御定書 ・田沼意次…株仲間の奨励，印旛沼干拓，商工業の活性化，賄賂の横行 ・松平定信…寛政の改革，棄捐令，困米の制，（ラクスマン来航） ・水野忠邦…天保の改革，株仲間の解散，上知令，（アヘン戦争）</p> <p>展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">課題：特色をとらえた川柳・狂歌をつくろう</p> </div> <p>2 川柳・狂歌（10分） まとめた特色をもとに、川柳・狂歌をつくる。 ・「役人の 子はにぎにぎを 良く覚え」</p> <p>・「白河の 清きに魚の 住みかねて もとの濁りの 田沼恋しき」</p> <p>3 グループで交流する（15分） グループで交流し、グループのベスト1を決定する。 クラスで共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生徒作品より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいちゃんの 政治まねする 孫の愛 ・質落とし 我らの収入 急上昇 ・身分秩序 推した朱子学 人よりも 犬が上なの 犬公方様 ・インフレか 犬とお寺で お手上げだ ・二千両 沼に捨てれば お奉行に ・人返し 結局自分が 替えされる ・やめるんだ 犬のけんかに 水さすな 冷やすべきものおまえの頭 ・金銀銅 何を混ぜても 金は金 今の裕福 幻影となり ・異国船 調子に乗って 打ち払い 英（はな）が開けば ビビリ水やり </div> <p>まとめ</p> <p>4 本時の振り返り（5分）</p>	

実践事例

社会

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">3 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">音楽・美術・技術・家庭・保健体育</p>
<p>授業内容</p> <p>・前時から「文化」とは何か、「文化」の役割はなにか？と考えてきた。その中で日本らしいものは何かと考え、そこには多くの「伝統文化」といわれるものが関わっていることを確認した。そこで、本時では、日本文化の独自性ともかかわりの深いであろう伝統文化の保存や継承について、地域や国の文化の独自性の観点から、自分の考えを持ち、日本文化を多面的（地域・世界視点）・多角的（経済・観光・文化など）に考察する。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p>・伝統文化の保存や継承の意義について、日本文化の独自性や地域的多様性などの観点から、自分なりの意見を持ち表現している。</p> <p style="text-align: center;">【思考・判断・表現】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>①日本の伝統や文化に関する理解</p> <p>③文化の伝承・創造への主体性など</p>
<p>授業のポイント・流れ（配時）</p> <p>導入</p> <p>1. 「観光」から国の魅力を考える。（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行会社の旅行先ランキングと旅行目的のデータを参考に、観光地としての人気は、その地域の独自性などから生まれていることを確認し、独自性を生み出す文化に着目させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題：なぜ「日本」の「伝統」的な文化を残していくのか？</p> </div> <p>展開</p> <p>2. 「文化」（10）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・①</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時で確認した身の周りの文化から、「日本らしい」文化といえるものを挙げて、2つに分類する。分類：「現代」の文化と「伝統的」な文化 この「日本らしさ」の範囲は様々あるが、自分の中で他の国と違う「日本らしさ」を持っていることを認識させる。 伝統的な文化の中でハイカルチャーと生活文化に分類し、時代を経て存続が危ぶまれる文化もある。 ※ハイカルチャーは、生活文化に根差しながらも、より専門的に継承されてきた文化ととらえて行った。 <p>3. 伝統文化の継承と保存の意義（20）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・③</p> <ul style="list-style-type: none"> 「伝統的な文化を守るべきか？」と聞かればほとんどの生徒が肯定するが、「なぜ必要なのか？」を問いかけ、持続可能な発展とも関連付けてその必要性を考えさせる。 日本の伝統文化に魅せられた外国人の例、導入時の資料などを使い、グループで話し合う。（ジグソー法または通常のグループ活動） 伝統を守る事例や日本の伝統文化に対しての海外からの評価の資料などを見て、伝統文化を守ることが持続可能な社会の形成にどのような役割を果たすのかを考えて、伝統文化の価値を改めて考える。 <p>4. 発表（10）</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化を形作ってきた自然環境や歴史、自国へのアイデンティティ、観光などにかかわるものを取り上げる。 <p>5. まとめ（5）</p>	

実践事例

社会

<p>学年</p> <p style="text-align: center;">3 年</p>	<p>関係・連携の考えられる教科等</p> <p style="text-align: center;">総合・技術・家庭・美術・体育・音楽</p>
<p>授業内容</p> <p>金沢市の課題をもとに伝統や文化が果たす役割を踏まえて、その保存や継承のための取り組みを提案することで、身近な地域の政治・まちづくりに自分がどのように関わることができるのか考える。</p>	
<p>教科等で身に付けたい力（本時について）</p> <p style="text-align: center;">主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現している 【社会的な思考・判断・表現】</p>	<p>育成したい資質・能力</p> <p>①日本の伝統や文化に関する理解 ③文化の伝承・創造への主体性など</p>
<p>授業のポイント・流れ</p> <p>導入</p> <p>1. 金沢の魅力と課題を知る(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社の旅行先ランキングと旅行目的のデータを参考に、観光地としての人気は、その地域の独自性などから生まれていることを確認し、独自性を生み出す文化に着目させる。 <p>展開</p> <p>2. 課題の分析と解決の取り組みを考察する(30)・・・・・・・・・・①，③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような課題とその原因があるのか資料から読み取る。 旧城下町区域の世帯人員，高齢世帯数，空き家の増加の資料を提示し，旧城下町区域が現在少子高齢化が進んでいることを読み取る。 歴史的建築物の消失，伝統的行事や営み，伝統産業の減少の資料を提示し，旧城下町区域の少子高齢化と関連付けて理解する。 ・上記の課題と原因から，どのような取り組みが考えられるか話し合う。 <p>3. 発表(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物の消失や伝統的行事や営みが減少していることを中心地の人口増加などからも取り組むことを提案したり，自らが伝統的な文化に触れることからでも自らができることを共有する。 <p>4. ふりかえり(5)</p>	